

特別支援学校における生活学習の学習内容に関する一考察[†]

清水 浩*

宇都宮大学教育学部附属特別支援学校*

本校は、平成12年度から3か年にわたり、文部省（現文部科学省）に研究開発学校として指定され、「個別の教育的ニーズにこたえる教育課程と授業の実践」を主題に研究を行ってきた。この研究では、教育内容の新たな分類（支援領域）を開発し、本校では教育内容を「発達・学習支援」「生活支援」「就労支援」の三つの支援領域に分類・整理した。今年度からの中学部の研究では、「個のわかる」授業実践を継続するとともに、そこで課題として挙げられた「集団」ということに視点を置き、これらの集団での効果的な学習の在り方についても研究を進めていくこととした。さらに、これらの研究を進め、全体の3支援領域の見直しをしながら、その中の「生活支援領域」の学習内容を中心に整理した。

キーワード： 教育課程、三支援領域、生活支援領域、生活学習

はじめに

中学部では、現在15名の生徒が在籍しており、障害の多様化、自閉症児の増加等の傾向にある。そのため対人関係の困難さやソーシャルスキルの獲得の不十分さなどに課題をもつ生徒が多く見られる。このような実態を踏まえ、三つの支援領域の中の特に生活支援領域を中心に「集団参加に必要な基礎的な能力や態度の育成」及び「家庭生活や社会生活を送る上で必要な基礎的な能力や態度の育成」を目標に指導している。具体策としては、「学級や行事等での係活動を充実させることで自分の役割を意識し自主的な活動ができるようにする。」や「これまでの生活の中で獲得したことや新たに経験したことを活かし、できる限り自分の力で身の事柄を処理できることを目指す。」など、「集団参加」や「社会生活」に関することに重点を置き、将来の自立を目指した指導を行っている。

昨年度中学部では、「一人一人の子どもを輝かせる個別の教育支援計画とその実践」という全体の研究主題の基、生徒の特性や実態、ニーズ等を踏まえコミュニケーションスキルとソーシャルスキルの獲得、及びそれらのスキルの活用仕方（般化）を目的とした、集団場面（主に生活学習）での指導の在

り方について研究を行ってきた。この取り組みから個別のニーズを明らかにし、個別の教育支援計画に反映させることで、生徒一人一人に対するコミュニケーションと社会性に関する支援・指導の方針の焦点化を図ることができた。また、生徒一人一人が受容しやすい支援・指導を中心とした「わかる授業」（本校研究紀要第22号参照）の実践を通し、生徒の主体的な活動を促すこともできた。しかし、集団の中での活動になると、学んだことが学習の場面で十分に展開されていないことが多く、集団での学習を効果的に展開させるためには、生徒の集団場面におけるコミュニケーションの受容の状態の把握と、生徒一人一人の受容コミュニケーションに配慮した支援・指導の工夫の検討等の必要性が課題として挙げられた。

中学部の3年間は、その後の高等部での学習を考えた場合や将来の自立を目指していくための基礎的な力をつける時期といえる。このような視点から、中学部の段階では教師や友達とのかわりや集団の中での約束やルールを理解する力、そして、生徒一人一人が集団の中で学習する内容や方法を理解し主体的に学習に参加できる力を育てていくことが必要であると考えられる。

今年度の研究では、「個のわかる」授業実践を継続するとともに、そこで課題として挙げられた「集団」ということに視点を置き、これらの集団での効果的な学習の在り方についても研究を進めていくこ

[†] Hiroshi SHIMIZU*: A Study on Learning Contents for Special Support School.

* Special Support School attached to Faculty of Education Utsunomiya University

ととした。さらに、これらの研究を進め、全体の3支援領域の見直しをしながら、その中の「生活支援領域」の学習内容を中心に、整理していくこととした。

1. 目的

個と集団に視点を置き、生活支援領域の学習内容を見直すことを通して、生活支援の在り方を検証する。

2. 方法

生活学習の実践事例から生活学習の学習内容を検証する。なお生活学習の概要は以下に示す。

(1) 生活学習の概要

生活学習は①テーマ学習「体験、実践を重視しつつ小さな社会である学級や学部の中で生徒が主体的に取り組むもの」②ニーズ学習「テーマ学習を補完するものとして、一人一人が個別のニーズに応じた一つ一つの生活スキル、知識、態度獲得のためのもの」の二つで構成している。それぞれのねらいと主な学習内容を以下に示す。

1) テーマ学習

生徒の主体性・自発性を促すために、生徒が興味・関心をもちやすい内容で実体験を積みながら知識・理解・判断力を身に付けるようにする。テーマは、家庭生活を送る上で必要な内容、社会生活を送る上で必要な内容、生活に潤いやゆとりを得る余暇に関する内容、高等部へのつながりや学校生活終了後の生活・進路を考える内容等を取り入れたものとする。主な学習内容としては、「家庭と私」「余暇と私」「地域と私」「進路と私」のテーマで生徒の現在のニーズから精選して活動内容を用意する。

2) ニーズ学習

個別のニーズやテーマ学習で課題となった生活に関する知識・技能・態度獲得に向けて繰り返し学び実際の生活での定着を目指す。また、その時々の課題や個別のニーズの変化に応じた内容を優先に行う等、柔軟な取り組みを行う。主な学習内容は、個別に指導計画を作成し、個々に学習内容を用意する。

3. 研究の実際

(1) 生徒の実態

3年生は、男子3名・女子2名、計5名の生徒が在籍している。障害の状況は、自閉症、ダウン症候

群、急性脳症後遺症と様々であるが、ほとんどの生徒が言語コミュニケーションが可能である。家庭においては、日常的に頼まれた物をコンビニ等に一人で買い物に行く手伝いをしている生徒や、ヘルパーと一緒に買い物をしている生徒もいる。交通機関の利用は、1名は登下校で電車とバスを利用しているが、ほとんどの生徒は日常的には利用する経験は少ない。パソコンに関しては、家庭で日常的に使ってホームページを見たり、それを印刷したりしている生徒もいるが、他の生徒は使う機会は少ない。

そこで、生活学習「地域と私」では、修学旅行の事前学習として、交通機関の利用の仕方、ファーストフード店での注文の仕方、パソコンを使った学習を行うこととした。

①A児

- ・ダウン症候群、心内膜床欠損症術後、外斜視
- ・S-M社会生活能力検査SQ42
- ・田中ビネー式知能検査IQ25
- ・身のまわりに関する指示がある程度理解できるので、S-M社会生活能力検査の「身辺自立」「自己統制」の項目や、社会的適応に関する評価の「身辺生活の処理」の項目では比較的高い数値を示している。着替えや荷物の整理・食事や排せつなどの面はおおむね一人で行うことができるが、不完全なこともあるので教師の確認が必要である。
- ・ダンスや歌唱などを好み、一人でロケさんだりカラオケをしたりして楽しむことができる。
- ・発音はやや不明瞭であるが、慣れた人になら自分からあいさつをしたり、自分の気持ちを伝えたりすることができる。しかし、初めての人や慣れない場所では話をしたり一人で行動したりすることが難しい。時々活動に遅れ気味の友達に対して強い口調になることがある。

- ・長時間身体を動かすことが苦手な肥満傾向である。
- ・保護者の送迎により自家用車で登下校している。
- ・言語・コミュニケーション観察チェックリストでは、コミュニケーション意欲は高く、その方法は表情・身体接触・指差し・有意味語となっている。

②B児

- ・S-M社会生活能力検査SQ62
- ・田中ビネー式知能検査IQ48
- ・S-M社会生活能力検査では「集団参加」の項目で比較的高い数値を示している。進んで教師や友達とコミュニケーションを取ろうとするが、時と場に

ふさわしい言動を取る事が難しい時もある。言語・コミュニケーション観察チェックリストでも、複数の相手に頻繁にコミュニケーションを取ろうとする意欲が見られ、その方法は視線・表情・身体接触・有意味語となっている。

・社会的適応に関する評価では、「身辺生活の処理」の項目で比較的高い数値を示しており、着替え・食事・排せつなど一人でできる事が多い。身辺の事柄はほぼ自立しているが、着替える時にボタンを掛け間違えることが時々ある。

・活動に集中しないときは、つま先立ちで歩いたり、自分で指のささくれをむいてしまったりすることがある。

・平仮名や簡単な漢字を読んだり書いたりすることができ、会話も活発であるが、内容がかみ合わなかったり、話題がそれてしまったりすることがある。文章を読んで内容を把握する事や、自分で考えて文章を書くことは苦手である。

③C児

・広汎性発達障害、自閉症

・S-M社会生活能力検査SQ53

・田中ビネー式知能検査IQ44

・S-M社会生活能力検査では「身辺自立」の項目で比較的高い数値を示している。身の回りのことはほとんど一人でできるがこだわりがあるためか「移動」や「意思交換」では低い数値を示している。

・平仮名や片仮名、小学校1年生程度の漢字の読み書きはできる。また、自分が知っている漢字で書ける所が平仮名で書いてあると、できるだけ漢字を使おうとし教師に修正を求める場面も見られる。

・時間や人、場面にこだわりが見られる。

・日常生活においては、言語での簡単な指示で見通しをもって活動することができる。発音は明瞭であるが声のトーンが高く聞き取りづらいときがある。

・友達や慣れた教師とのかかわりをもとうとして、抱きついたり同じ言葉のやりとりを繰り返したりすることがある。言語・コミュニケーション観察チェックリストでも、積極的にコミュニケーションを取ろうとするが、特定の相手であることが多い。

・テレビ、ビデオ、ラジカセ、パソコン、カメラなどの機械類に興味があり、操作する技能も向上している。

・徒歩で自主通学をしている。

④D児

・精神発達遅滞 自閉傾向

・S-M社会生活能力検査SQ52

・田中ビネー式知能検査IQ41

・S-M社会生活能力検査では「作業」の項目で高い数値を示している。

・社会的適応に関する評価では「身辺生活の処理」や「社会生活」の項目で比較的高い数値を示している。身の回りのことはおおむね一人でできるが、着替える時に服の裏返しやボタンの掛け間違えなどが見られる。また、下着が出ていることも多い。

・立位の際につま先を内側に向けて両足を重ねるようにしていることが多い。また、やや扁平足ぎみで姿勢が悪くなることもあり、歩行の際につまづいたり、段差のある場所で転倒しやすい。

・自分の名前を平仮名で書くことができ、また普段使っている言葉であれば読んだり書いたりすることができる。

・簡単な内容であれば言葉によるコミュニケーションができ、積極的にコミュニケーションを取ろうとするが、その場にふさわしい言葉遣いや声の大きさの調整が難しい事もある。

・慣れた場所では安定して生活することができるが特定の音や声が気になりだすと過敏に反応して嫌がることもある。また、友達の行動が気になりその友達を注意してしまうこともある。

・扇風機等回るものに強い関心をもち、じっと眺めていたり、それらを絵に描いたりすることを好む。

・保護者の送迎により自家用車で登下校している。

・登校のみ、保護者の付添で自主通学をしている。

⑤E児

・S-M社会生活能力検査SQ8

・新版K式発達検査DQ7.8

・上下肢の軽いまひがあり、姿勢をコントロールして行動することが難しく、歩行もやや不安定であるが、両手でかごなどを持って階段の上がり下がりができるようになってきている。

・自分の好きな物を見つけると、小走りに近づき触って感触を楽しむことがある。

・身辺処理については支援を必要とする。食事ではフォークやスプーンに食べ物を乗せると、持って口に運べるが支援は引き続き必要である。社会的適応に関する評価でも、「身辺生活の処理」や「知的能力」で全面的な補助や指示が必要とある。

・自発語はないものの、名前を呼ばれると笑顔で応

じたり反復的な言葉かけや身体接触に声を挙げて喜んだりする様子が見られる。

・友達の遊んでいる様子を、側に寄ってじっと見ていることがある。

・言語・コミュニケーション観察チェックリストではコミュニケーションの方法が表情・身体接触・発声となっている。

(2) 指導計画

1) 目標

①修学旅行に関心をもち、クラスで出掛けることを意識することができる。

②交通機関や公共の施設において、安全かつ安定した状態で過ごすことができる。

③食事や買い物等の場面で、自分の意思を決めそれを個々の実態に応じた方法で伝え、食事や買い物ができる。

④学習活動の各場面で友達と一緒に活動する経験を積み、人とかかわりながら行動する態度・意欲を身に付ける。

⑤スケジュールカード・ブック等により学習活動を理解し、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができる。

2) 学習・活動内容

①第1回目9月20日(木)

「修学旅行ガイドンス」

・修学旅行の目的や活動内容、日程を理解する。
・ビデオ視聴で外出をシュミレーションする。また当日の活動を視覚的にとらえておく。

②第2回目9月21日(金)

「Bテーマパークについて知ろう」

・ホームページや昨年度のビデオ等を視聴し、施設について知る。

③第3回目10月11日(木)

「日程確認①、しおり作成(写真やパンフレットを用いて)」

・教師の現地調査のビデオ等を視聴して、ホテル到着までの第1日目の活動について活動順にしおりに記入する。

④第4回目10月12日(金)

「日程確認②、しおり作成(写真やパンフレットを用いて)」

・ホテル到着後及び第2日目の活動について活動順にしおりに記入する。

⑤第5回目10月18日(木)

「校外学習事前学習」

・交通機関(バス)

・JR宇都宮駅の利用の仕方を知る。

・安全な道路の歩き方、食事の注文の仕方を知る。

⑥第6回目10月19日(金)

「校外学習」

・交通機関・自販機や売店の利用の仕方、順番待ち等のマナーについて知る。

・ファーストフード店での注文の仕方を知る。

⑦第7回目10月25日(木)

「校外学習のまとめ、最終確認」

・道路の安全利用・交通機関の利用の仕方を知る。

・金銭の取り扱い・乗り物と遊具の利用について知る。

・自他の荷物の区別・取り扱い・人との交わり・マナーについて知る。

⑧第8回目10月26日(金)

「荷物を送ろう」

・忘れ物の有無の確認・収納と管理の仕方を知る。

⑨第9日目10月30日(火)

「修学旅行第1日目」

・電車切符購入・電車内でのマナー・昼食及び夕食の注文・支払いの仕方を知る。

・乗りたいアトラクションについて話し合う。

・お土産購入の仕方を知る。

⑩第10回目10月31日(水)

「修学旅行第2日目」

・電車切符購入・電車内でのマナーについて知る。

⑪第11回目11月1日(木)

「修学旅行報告会」

・修学旅行のビデオを視聴し、感想を発表する。

⑫第12回目11月2日(金)

「学習のまとめをしよう(全体)」

(3) 指導の実際

校外学習の事前学習として、ファーストフード店での注文、支払いの練習を行った。あらかじめ注文する物を決めておき、店員役に注文をすることにした。4名が言語コミュニケーション可能なので、教師の示範と手順表を手がかりとして繰り返し練習を行った。普段からの経験がある生徒は、手がかりがなくても注文することができていた。自信がなく声が小さくなってしまふ生徒は、教師と一緒に手順を確認した。実際に店舗で使用しているメニュー表を用いることで、視覚的にも分かりやすくなった。ま

た、校外学習で注文する際も、同様のメニュー表であったため迷わず安心して活動できていた。

修学旅行の事前学習として、交通機関の利用、飲食店での注文の仕方を練習した。その結果、ほとんどの生徒が教師の指示がなくても注文や支払いをすることができた。課題としては、事前に練習した注文の手順とは違うことがやりとりとして加わったときに、理解できていなくても「はい」と返事をしてしまうケースである。普段の言葉でのやりとりでも本当に内容を理解していないのに返事をしていることがあり、内容を理解した上での返事なのかを確認する必要性を改めて感じた。

表1 注文の仕方に関する手順表

注文の仕方	
1	<p>いらっしゃいませ。 ご注文は何になさいますか？</p> <p>〇〇〇をください。</p>
2	<p>お会計は〇〇〇になります。</p> <p>お金を払う</p> <p>おつりをもらう</p> <p>席につく</p>

修学旅行で食事をする店を決めたり土産はどのようなものがあるのかを見て値段の確認をしたり、アトラクションを選んだりする際にインターネットを利用した。行ったことがない生徒がほとんどであったが、あらかじめ写真や映像で確認することができたので、見通しがもてたと同時に意欲を高めることもできた。

(4) 個人目標と評価

1) A児

①目標

- ・バスの乗車料金を一人で払うことができる。
- ・駅構内や新幹線に興味を持ちながら見学することができる。
- ・自分で注文をし、教師の指示でお金を払いおつり

をもらうことができる。

- ・友達と話し合いをしながら、どこに行くのかを決めることができる。

②評価

- ・周りの様子を見て前もって手帳とお金を準備し、一人で支払いができた。
- ・指示に従って、タッチパネルを使っての購入の練習ができた。
- ・教師の指示がなくても注文、支払いができた。

2) B児

①目標

- ・マナーを守りながら、バスに乗ることができる。
- ・駅職員の方の説明をよく聞くことができる。
- ・一人で注文、会計をすることができる。
- ・友達と話し合いをしながら、どこに行くのかを決めることができる。

②評価

- ・足を組む様子も見られ、バスの乗り方に関しては教師から注意を受ける場面が見られた。
- ・駅では職員の話を中心して聞きながら、興味をもって見学することができた。
- ・昼食は、自分の希望するものを選び店員の方に注文することができた。
- ・昼食後の見学では、中心となって友達と話し合いをすすめることができた。

3) C児

①目標

- ・落ち着いてバスに乗り料金を払うことができる。
- ・駅見学をすることで修学旅行当日の集合場所や利用について見通しをもつことができる。
- ・一人で注文、会計を済ますことができる。
- ・友達と話し合いをしながら、どこに行くのかを決めることができる。

②評価

- ・昼食は、予定していたものを注文し忘れて再度注文をした。自分の希望するものを選び店員の方に注文をすることができた。
- ・飲み物の容器の色が思っていたものと違ったため混乱も見られたがすぐに受け入れることができた。

4) D児

①目標

- ・周りの物や人などに注意してバスの乗り降りができる。
- ・駅職員の方の説明を注意して聞くことができる。

- ・一人で注文、会計を済ますことができる。
- ・友達と話し合いをしながら、どこに行くのかを決めることができる。

②評価

- ・昼食は自分の希望するものを選び、店員の方に注文をすることができた。

5) E児

①目標

- ・駅の利用について知ることができる。
- ・慣れない場所での食事を落ち着いて摂ることができる。またできるだけ自分で食べることができる。

②評価

- ・階段の上りは落ち着いて自分のペースでできた。
- ・下りは教師が右足に触れて合図をしながら一緒に歩行できた。
- ・階数を重ねるごとにエスカレーターの利用に慣れ手ずりと教師の補助で安全に利用できた。
- ・昼食はポテトを自分一人で食べることができた。

4. 考察

今回の実践で有効であった点は、飲食店での注文を事前学習、校外学習、修学旅行と段階をおって学習したことで、自信をもって活動ができるようになったことである。

校外学習では駅員に説明を受け、券売機を使い、指示に従ってタッチパネルの操作を体験した。修学旅行での出発駅や到着駅を確認しながら、一人一人実際に体験することができた。本物の券売機での操作の練習により、本番では簡単な言語指示等でスムーズに切符の購入ができた。修学旅行当日は、事前学習で値段を調べ、券売機の操作を経験していたので、切符を購入する場面では一人一人見通しをもって取り組むことができた。

また、飲食店での注文については、好きな物を注文し支払いすることを昼食と飲み物を購入する際の2回経験することができた。どちらも校外学習時のファーストフード店と同様の手順であったため、その積み重ねが活かされ、旅行先でも自信をもって注文することができた。

今後の課題としては、事前に練習した手順と違うことがやりとりとして加わったときに、理解できていなくても返事をしてしまうことである。内容を理解しているかどうか、分からないときにどうしたらいいのかも身に付けていくことが必要であると感じ

た。また、様々な実際の場면을想定して学習内容を組む大切さを再確認した。

おわりに

今年度の研究では、集団での学習を効果的に展開させるために、どのようにすれば生徒一人一人が集団の中で学習する内容や方法等を理解し、主体的に学習に参加できる力を育てていくことができるかという点について、生活学習の実践や「生活支援領域」の学習内容を整理することを通して検討してきた。1年間の研究から見えてきたことに関して以下に示す。

3年生の校外学習及び修学旅行では、学年の5名という集団で学習に取り組んだ。特に、修学旅行での実際の活動を見通しながら、事前学習や校外学習など系統立てた学習を積み重ねていった。このことにより、電車の切符購入や食事の注文及び支払いなどの場面では、どのようにすればよいか分かり自信をもって取り組める生徒が多く見られた。自分が分かることによって他の生徒に教えたり、自分たちが行ったこと感想を友達同士で話し合うなどの場面も見られた。

以上のように、生徒の実態をしっかり押さえ、生徒が理解しやすい学習内容を提示していくことが集団全体の学習の理解を進めることにつながっていくことが分かった。

生活学習の実践の中で、生徒一人一人が分かりやすく、興味・関心をもてる学習内容を検討してきたわけだが、学習内容を見直し整理することで、生徒一人一人の「何をどのようにやるのか」等の理解につながった。また、学習内容の系統性を意識し、段階を経て繰り返し学習することで、自信をもって活動に参加することができることも再確認することができた。

今年度は、生活学習の中の「地域と私」の実践を通して学習内容を見直してきたが、今後はその他の学習内容との系統性を検討していきたい。

参考文献

- 1) 宇都宮大学教育学部附属養護学校、「研究紀要第20号」2005.
- 2) 全国特殊学校長会、「盲・聾・養護学校における個別的教育支援計画」ジアース教育新社、2004.